

平成31年度大学コンソーシアムやまがた臨時幹事会議事録

日 時：平成31年4月25日（木）13：30～14：30

場 所：ゆうキャンパス・ステーション

出席者：委員長 安田 弘法（山形大学）

副委員長 伊藤 文明（山形県立保健医療大学）

嶋貫 修（山形県立米沢栄養大学・山形県立米沢女子短期大学）

大桃 伸一（東北文教大学・東北文教大学短期大学部）

委 員 上條 利夫（鶴岡工業高等専門学校）

神田 直弥（東北公益文科大学）⇒代理 白田裕司

藤原 茂樹（放送大学山形学習センター）

菅原 和彦（山形県）

椎谷 亨一（山形県立産業技術短期大学校）

松田 茂（山形県立産業技術短期大学校庄内校）

後藤 義昭（山形県立農林大学校）⇒代理 五十鈴川寛司

小幡 知之（山形工科短期大学校）

栗山 恭直（企画会議委員長／山形大学）

井上 榮子（ダイバーシティ推進ネットワーク会議議長／山形大学）

欠席者： 野村 真司（東北芸術工科大学）

太田 裕子（羽陽学園短期大学）

陪席者： 橋本 祥子（山形県総務部学事文書課主事）

出口 毅（山形大学副学長）

松田 敦子（山形大学教育・学生支援部学務課長）

事務局： 齋藤幸太郎、西田 靖子

会議に先立ち、事務局から会議成立の報告、新委員6名の紹介及び陪席者3名の紹介があった。

議題

【協議事項】 1 ゆうキャンパス・ステーションの移転について

議事に先立ち、安田委員長から本コンソーシアムの目的、総会及び幹事会の審議内容について会則に基づき説明があった。次いで、本日の臨時幹事会の開催趣旨について、3月5日の幹事会でゆうキャンパス・ステーションの移転に伴い、平成31年度の負担金の取り扱いが課題となっていたこと。また、平成31年度、32年度負担金が機関ごとにより増減するかについてのシミュレーションを3月末まで示すことにしていたが、3月27日に県教育庁から、遊学館の使用料を全額免除する旨及び運営費について新たな提示があったことから、その金額に基づくシミュレーションを4月初めに示して、各機関の考えを聞いたこと。さらに、その結果を会長に相談して作成したものが今回の資料となった旨の経過説明があった。

続いて、事務局から資料1から資料3までの説明が以下のとおりあった。

(説明内容)

資料1について

- ・これまでのコンソーシアム予算の推移について、機関負担金（会費）とゆうキャンパス・ステーション運営費を上下に分け示したもので、平成31年度予算は移転費用の関係から各機関が平成30年度と同様に負担する場合、下段のゆうステ運営費に不足額が生じるため、どのように対応していくか3月の幹事会から引続き検討いただいているもの。

資料2について

- ・3月5日の幹事会提案の後、4月初めに示した見直し案に基づき、A案、B案、C案に対する各機関の結果をまとめたもので、代替え案は特になかった。

資料3について

- ・資料2を会長に報告したところ、今回の事案はコンソーシアム全機関が共同して対応すべきものであり、そのことを踏まえてもう一度幹事会で議論してもらいたいという意見に基づき再提案するもの。
- ・1-2に新拠点運営費として2020年2月、3月分の見込額30,000円を加えた。
- ・2.の経費負担については、「機関負担金（会費）」960,420円に30,000円の新拠点運営費を加えている。
- ・4.平成31年度「ゆうステ運営費」については、資料2でB案の回答が多かったこと、また、A案、B案共不足見込み額に差がほとんどなくなったことから、今回は来年2月、3月の新拠点運営費を機関負担金から負担することとするB案に整理した。
- ・5.不足額への対応案については、平成31年度不足額を解消するB案の「①全機関に均等に按分して負担をお願いします。」と「②全機関に相応の負担をお願いします。」と二通り提案する。また、C案は前回と同様で、今年度の不足額を次年度以降に繰り越して数年かけて償還する案である。
- ・6.2020年度からの「機関負担金（会費）」については、前回説明と同様に新拠点となる「遊学館」における活動もコンソーシアム事業の一つとして取り扱い、「機関負担金（会費）」からの支出とする。また、新拠点運営費は、現在年額36万円と見込んでいるので、この増額分については「機関負担金（会費）」の積算内容を見直して対応することを考えている。

次いで委員長から、今回のゆうキャンパス・ステーションの移転に起因した運営費の不足830,000円に対してどのようにするかについて、会長の強い意志として、今まで負担の有無に機関の温度差があったが、運営は全機関が関わって行っていくものであるから全機関で対応すべきであり、ここで見直したいというものである。それを踏まえて特に資料3の5（不足額への対応について）のB案①②のとおり全機関に負担願う提案となった。基本的にはみんなでお金を出してみんなでやっ払いこうと、そうでなければ、会長はこの会から脱会してもらってもよいとの考えで、ここで整理をしたいという強い意志である旨の説明があった。

このことについて、以下の質疑応答・意見交換があった。

(質疑応答等の内容)

・新拠点運営費2月、3月分の光熱水料・保守点検料等3万円の根拠を教えてください。

(白田委員代理)

→内訳は詳しくはわからない。(4月2日に送った)見直し案に記載しているが、県教育庁の資料から光熱水料等としての年額250,000円(清掃料除く)に別途電気料を加え、2か月の見込み額としたものである。(事務局)

・今までゆうステ運営費を負担している機関としていない機関があったわけだが、平成32年度以降は全て会費でやっていく提案ということによいか。(白田委員代理)

→そのとおりである。平成32年度からはゆうステ運営費をなくし、新拠点運営費も機関負担金(会費)として扱い、一本にするという提案である。(事務局)

・C案についての確認だが、以前もらった資料と同じ内容ということで良いか。(五十鈴川委員代理)

→同じ内容である。(事務局)

・(C案では)今年度農林大学校は0円で、来年度は会費1万円増額となるということによいか。(五十鈴川委員代理)

→前回までは参考のために金額を示しており、山形大学が若干負担額を多くしたものであった。機関負担金の基準としている機関割、(学生収容)定員割の積算方法の見直しなど、もう一度シミュレーションをする必要があり、この場合、県の予算申請前までに提案したいと考えている。(事務局)

・委員長の説明で各構成機関に応分の負担をお願いするという会長の意向があったということだが、C案の場合も応分の負担があるという考えによいか。(嶋貫委員)

→今年度の予算が決まっているところは負担できないという機関もあると思われるので、赤字の部分を次年度以降にお願いするというのがC案である。(委員長)

・移転後は(ゆうステ)運営費はなくなって機関負担金に一本化されるということだが、機関負担金の割合の考え方も変わってくるということであった。その割合等がどのようになるのかはまだわからないのか。(小幡委員)

→前回までの見直し案で示したのは、(東日本大震災の)震災後に1割減としていた機関割の部分を震災前の負担額、4年制大学なら180,000円を200,000円、短大等であれば90,000円を100,000円と単純に戻した額にすれば、何とかまかなえるのではないかとシミュレーションしたもの。もし、C案で(赤字分を)繰り越しとした場合、何年で償還するのか。また、新たに発生する運営費を機関負担金に乗せた場合にどのくらいの金額になるかについて、機関割の増額だけで済むのか学生の収容定員割の増額まで考えるのかをシミュレーションする必要がある。今まで示した参考が独り歩きしては困ることから、(コンソーシアムにおける)対応が決定してから8月頃までに改めて示したいと考えている。(事務局)

・今回の件に関する最終決定はいつになるのか。(小幡委員)

→(予算に関する)企画立案は幹事会であるが、最終決定は6月の総会となる。(事務局)

・本学は小さい機関であるので、物理的に対応が不可能であることも考慮して対応を考えていきたい。(小幡委員)

・B案①の全機関均等負担となる場合、資料4の平成31年度機関負担金の額を超える機

関が出てきて、規模の小さい機関はより負担が大きくなるがその考えでよろしいか。

(伊藤委員)

→この件に関しては、会長に相談に行った際に、今回の臨時的経費に関しては全機関均等に負担する案であっても良いのではないのかという話があったことから、提案の一つに挙げたもの。このこともあり、機関規模を考慮したB案の②も提案させていただいている。(事務局)

・資料3の7、8頁にある額は、山形大学が一番金額が違う(大きい)のでこの点をどのように考えるかによるが、先ほど意見があったように、規模の小さい機関に大きな負担が行かないようにB案②が良いと考える。(白田委員代理)

・6月の幹事会でどう整理するのかの見通しを今出さなくともよいのか。もしそこまで行かないという考えであれば今日の議論はこんなところだと思われるが。(藤原委員)

→先ほど公益大白田さんから出してもらったような意見をもらえれば有難い。それをもとに6月の幹事会ではもう少し突っ込んだ議論ができると思われる。(委員長)

・C案も選択肢の一つであれば、83万円を何年で償還するかは出さないのか。(椎谷委員)

→前回まで、今回の資料3の2頁一番下の6.②に見え消しで参考までに3年で償還する場合を示していた。(事務局)

・B案②では、山形大学の負担が多い案となっており、自分の大学を考えると負担が少なくても良いのだが、やはりみんなで負担していくことを考えれば、現在の機関負担金の積算方法として機関割や収容定員割の考え方があるので、この方法でB案を修正する形にして規模の小さい機関を配慮する案がよいと考える。(伊藤委員)

・B案によると米沢栄養大学と米沢女子短期大学とが別になっており、うちは財布が一つなのだがやはりこうなるのか。(嶋貫委員)

→設置が別々であるということで、分けて登録する旨の申請があったものである。なお、文教大は逆に一つで登録の依頼があったもので、そのように取り扱ってきている。(事務局)

・今日の議題は、83万円の不足額をどのようにするのが問題で、これについて、B案の①②では負担割合を均等にするのが7頁で、機関規模に応じた負担とするのが8頁である。もう一つC案は次年度以降に分割払いするかということであるが、私どもの話として、B案かC案かを議論した時に今年度負担するよりは来年度以降に分割して負担する方法が有難い。この前意見として書かせてもらったが、ゆうキャンパス・ステーションの移転に伴う原状回復費としては、財政的に理屈が立ちづらいところがある。今まで負担していないところの原状回復というよりは、来年度以降の(予算の)立て方を含めて考慮してもらった方が我々にとって都合が良い。(菅原委員)

・C案の場合は借りることになる訳だが、利子はどのようにするのか。(白田委員代理)

→(現時点では)某機関に無利子で貸してもらおうことを考えている。(事務局)

・恐らく今年度の予算で不足額を充当しろと言われても、かなりの機関が対応不可能であろうと思っている。問題を先延ばしすることについて、今年度の移転費用に関してはそれしか解決策がないかなと思っており、不足額をどうしていくかについての議論

を6月の幹事会に出してほしい。今年度の不足額を解消するための負担をどうするかというのと、来年度以降負担をどうするのかということも6月に出さないといつまでたっても問題が伸びてしまう恐れがある。この問題についてはこれまでの期間努力してきたので、6月の段階で方針を定め、それを踏まえて各機関が来年度予算をどのようにするか持ち帰って議論ができるようにしてもらいたい。(藤原委員)

- ・今の意見について、事務局はどうなのか。(委員長)
- 各機関へ確認させてもらいたいのだが、B案は今年度中に(不足額を)解消したいという提案だが、(今までの話から)県立の機関は予算的に難しいと思われる。また、ある大学からはB案の場合は捻出するのが大変なのでどうなるのかという電話をもらっている。少なくとも出席された機関においては、B案のいずれかで決まった場合の対応が可能かお尋ねしたい。B案が難しいのであればC案しかないのではないかと考えられるがいかがか。(事務局)
- ・うちの場合は、B案となった時は補正予算を組んで対応するつもりでいた。(白田委員代理)
- ・先ほど菅原委員が言われたように、補正予算の意味が立つのであれば県も恐らく要求はできるが、それが困難であろうと思われるので、今年度予算での対応は大変であろう。6月の議論の中で2月の補正で県にこのようにやってくれというのか、来年度の予算でこのように埋めましょうとお願いするのか、正直どちらかの方法しかないのではないか。(藤原委員)
- ・今までの意見からは今年度の補正という手段もないではないが、難しいとの意見もあるので、来年度の予算で考えるというのは事務局としてはどうか。(委員長)
- 事務局としてシミュレーションはいろいろ考えるが、B案①②やC案のいずれにしても負担割合がこれで良いのかという疑問があり、変数が多いことから積算の基準を決めないとシミュレーションが多くなり、かえって混乱を生じやすい。委員長提案のように繰り越すC案として決めてもらい、それを3年で償還するというシミュレーションは可能である。(事務局)

以上の意見交換等の結果、委員長から、不足額については次年度以降の予算で対応することとし、機関負担金(会費)の積算基準に関しては、4年制大学、短大等及び50人に満たない機関などに分けてきた従前の積算基準を基礎にすることにして、これを3年で償還することではどうかとの提案があり、このシミュレーションを5月半ばころまでに示して、6月の第1回幹事会に諮ることとした。

また、資料4に示す「平成31年度の機関負担金(会費)(案)」及び資料3の13頁に示す「平成31年度ゆうキャンパス・ステーション運営費負担金(案)」の2事案も承認された。

以上

【配付資料】

資料 No. なし

- ・ 幹事会委員名簿
- ・ 大学コンソーシアムやまがた会則
- ・ 平成30年度大学コンソーシアムやまがた第2回幹事会議事録
(平成31年3月5日開催)

資料1 機関負担金(会費)及びゆうキャンパス・ステーション運営費予算の推移

資料2 平成30年度第2回幹事会の課題(回答結果)

資料3 ゆうキャンパス・ステーション(ゆうステ)の移転費用及び平成31年度負担金について

資料4 平成31年度機関負担金(会費)(案)

議事録署名人

幹事会委員長/山形大学理事・副学長

子田弘法